

## <大会開催報告>

# 初年次教育学会 第9回大会 開催報告

谷川裕稔

四国大学

初年次教育学会第9回大会は、2016年9月10日(土)・11日(日)の両日、四国大学(徳島県徳島市)にて開催されました。教育改革のなかで「初年次教育」を重要な位置づけとしております本学におきまして、本大会を開催できましたことは非常に光栄かつ名誉なことでした。また、大きな混乱もなく無事に終えることができましたのは、会員の皆様のご協力の賜物です。まずは心より感謝申し上げます。

大会開催を引き受けるにあたり、おこがましいのですが、「中小規模大学が全国大会を運営する上でのモデルケースになること」を目指しました。具体的には、①会場のコンパクトさ、②初年次教育学会員が少人数(今回は1名)ゆえの全学協力体制での効率的な運営、です。実際に大会運営に携わった教職員は29人、ボランティア学生は8人でした。運営にあたり学長の全面協力が、強力な後押しとなりました。教員以外の事務職員ですが、全学共通教育センター、学修支援センター(いずれも教育支援課員)に加え、地域教育連携センター、教育支援課、総合企画課、広報課、学生支援課、学部運営支援課などの部局からのサポートを得ることができました。結果として、ほぼ全学的な教職協働の運営体制となりました。

ところで、第9回大会の参加者は277名でした(内18名は学内実行委員および学内協力者以外の四国大学教職員数)。残念ながら、過去最少の参加者数ということになりました。その原因は定かではありませんが、①web上での申し込み、②大学の知名度、③日程(土日開催)、④「初年次教育」という学問分野への熱度の安定、などをその可能性として考えています。

まず①ですが、本大会から新しく導入されたweb上の申し込みシステムということで、システム設定が4月後半までかかったことによる各種申し込みの開始時期の遅れと申し込み期間の短縮に加えて、それに付随した申し込み方法の変更などが会員の皆様のとまどいに繋がったのかもしれませんが。②ですが、大学の知名度というよりもむしろ、「徳島」という地理的なイメージがあったのかもしれませんが(意外に交通の便はよいのですが……)。③ですが、従前は平日に実施されていましたが、本学の都合で週末に設定させていただきました。そのことによる何らかの影響(たとえば他学会開催との絡み他)を受けたのかもしれませんが。最後の④ですが、「初年次教育」という学問分野が高等教育場面で一定の認知を得たことにより同分野に対する熱度が一段落したのかもしれませんが。もちろん、いずれも推測の域を出るものではありません。

さて、今大会のテーマは『初年次教育とエンrollmentマネジメント』といたしました。その際、「エンrollmentマネジメント」を、本大会では「学生が大学に入学し、在籍し、卒業するまでの流れを意識する学生の流れ」ととらえました。初年次教育(プログラ

ム)は、まさに同マネジメントを支える営みといえます。なかでも、「学生確保」と「学生の定着 (retention)」に係る初年次教育の有効性にテーマの内容を特化したしました。それを意識し、特別講演は教育ジャーナリストの山内太地氏を招聘しました。演題は「初年次教育を活用した学生確保のあり方」でした。同氏の講演を端緒として、「エンrollmentマネジメント」に係る議論が本大会で深まることを期待しました。筆者が企画しましたラウンドテーブル『初年次教育は学生の定着に寄与できるか? :エンrollmentマネジメントを意識したシステム創り』も大会テーマにそったものでした。その他、課題研究シンポジウム1件、ワークショップ6件、ラウンドテーブル2件、自由研究発表47件というプログラム構成となりました。特に大会第1日目に実施された企画セッションI「ワークショップ」ですが、各教室ともに立錫の余地がないほどの大盛況でした。加えて、第7回大会より始まった「課題研究大会」は、第8回大会を踏襲し「課題研究シンポジウム」との名称で開催されました。テーマは「初年次教育の評価：プログラムとしての評価、学生をどう評価するか」で、「大学適応型」「学習スキル型」「研究大学型」という観点から議論されました。ちなみに同シンポジウムは、第11回記念大会にて一定の総括がなされる予定になっています。

大会運営にあたり、新しい試みとして懇親会を3部構成(スペシャルライブ、阿波踊り、情報交換会)といたしました。スペシャルライブでは2016年4月に完成した芸術館の本格的なライブハウスにて、本学学生(短期大学部音楽科)に加え学長みずからコスプレにて出演いたしました。同ライブは施設見学の一環としての意味ももたせました。また本学学生による阿波踊りのパフォーマンスをお見せいたしました。懇親会に参加いただいた会員の皆様には、楽しんでいただけたご様子でした。ちなみに、情報交換会の参加者は118名でした。他には、「施設案内：学修支援センター見学ツアー」、参加者が珈琲を飲みながら語り合う場である「カフェクラッチュ」を設けました。前者は35名(17機関)が参加してくださいました。後者の利用者数は延べ300名とのことでした。2つの新しい試みもすべて好評でした。

本大会は、「お接待(おせったい)」という文化をもつ徳島にある大学ということで、それを意識した運営を心掛けました。大会期間中、学内スタッフの不手際から参加者の皆様方に対してご迷惑をおかけしたこともあるかと存じます。この場をお借りしお詫びいたします。が、運営に関するおほめの言葉も参加者の皆様方からいただきました。たとえば、手前味噌で誠にもって恐縮ですが「大会運営の新しいモデルケースの確立をみた」「細部まで行き届いた準備と運営」、学内スタッフ(学生含む)の対応が「気持ち良い」「すがすがしい」などです。

最後になりましたが、前回開催校である明星大学の実行委員の皆様方には感謝いたします。第9回大会直前まで、いろいろとご助言をいただきました。また、大会開催にあたりサポートをくださった会長・事務局長、学外実行委員および理事の皆様にもお礼を申し上げます。

第10回大会は中部大学にて開催されます。大会実行委員長の大西直之先生は、早くから運営に係る計画に着手されています。第10回大会が充実したものとなることに疑いの余地はありません。第10回大会の成功を祈念することをもって第9回大会の開催報告の結びとさせていただきます。

(初年次教育学会第9回大会実行委員長)